**中　寒二 （なか・かんじ）**

**１、プロフィール**

詩人。「北方人間」創刊。「交替詩派」・「日本詩潮」・「羊眼」等の同人を経て、「表現派」を発行。詩誌「木々」同人。昭和46年詩集『尻取り遊び』で第12回土井晩翠賞受賞。

＜生没＞

1930（昭和５）年９月30日～2003（平成15）年11月16日

＜代表作＞

詩集『対話の要素』『尻取り遊び』『発生』『バンコク』、

詩論集『表現の行為』、

散文集『旅の光と影』

＜青森との関わり＞

八戸市鮫町に生まれる。昭和43年から詩誌「表現派」を発行。昭和58年から平成10年まで青森県詩人連盟会長。

**２、作家解説**

本名は中村福治。昭和５年９月30日、八戸市鮫町林通りに生まれる。昭和26年３月に八戸市立商業高等学校を卒業（中退）。美術の教員免許を取得し、美術・国語を担当して八戸市内の中学教論になる。昭和58年３月に退職し、北方社工房を始める。

昭和26年９月に作家の左館秀之助と詩誌「北方人間」を32年まで発行。昭和33年６月に左館と文芸誌「短編作家」を34年７月まで３号発行（小説を執筆）。昭和38年２月に文芸誌「北原」を主宰。昭和43年３月に詩誌「表現派」を主宰（平成12年現在119号）。その間に「交替詩派」・「日本詩潮」・「羊眼」・「朴」・「木々」等の同人となって作品を発表。

詩集は昭和27年に『北に咲く花』（北方人間社）、36年に『対話の要素』（思潮社）、46年に『尻取り遊び』（表現派詩社）、49年に『発生』（表現派詩社）、54年に『まぬけな牛』（表現派詩社）、55年に『バンコク』（表現派詩社）、59年に『南方巡礼』（表現派詩社）、62年に『あこがれ』・『祭り』（表現派詩社）、平成３年に『雨季 中寒二詩選集』（青森県文芸協会出版部）、６年に『乾河道』（近代文藝社）がある。詩論集は昭和62年に『表現の行為』（表現派詩社）がある。散文集は昭和54年に『海を見に行く』（文芸協会出版）、63年に『旅の光と影』・平成２年に『ふるさとの歳時記』・５年に『美しきイスラム』・８年に『大晦日の雪』・11年に『寒さの夏』・12年に『冷夏のできごと』（表現派詩社）がある。著作にもあるように、毎年１～３回、アジア・アフリカを中心に旅をした。

昭和47年に八戸市文化奨励賞、48年に青森県芸術文化奨励賞、58年に第４回青森県文芸協会賞、平成11年に青森県芸術文化振興功労章を受賞。

昭和58年から平成10年まで、青森県詩人連盟会長。日本現代詩歌文学館評議員。

**３、資料紹介**

〇『尻取り遊び』

図書

1971（昭和46）年９月20日

190㎜×132㎜

昭和36年から46年までの三十代の作品33編が収められている。表現派詩社で発行。言語の発生・起源にイメージを展開している詩集である。第12回土井晩翠賞を受賞する。タイトルにもなった『尻取り遊び』の最終行は「きみもまた 無名のほとりを歩きつづける。」